

※1 賃貸・売却等用の空き家:賃貸用、売却用、二次的住宅(別荘及びその他(たまに寝泊まりする人がいる住宅))

※2 その他の空き家:上記以外の他に人が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建替えなどのために取り壊すことになっている住宅

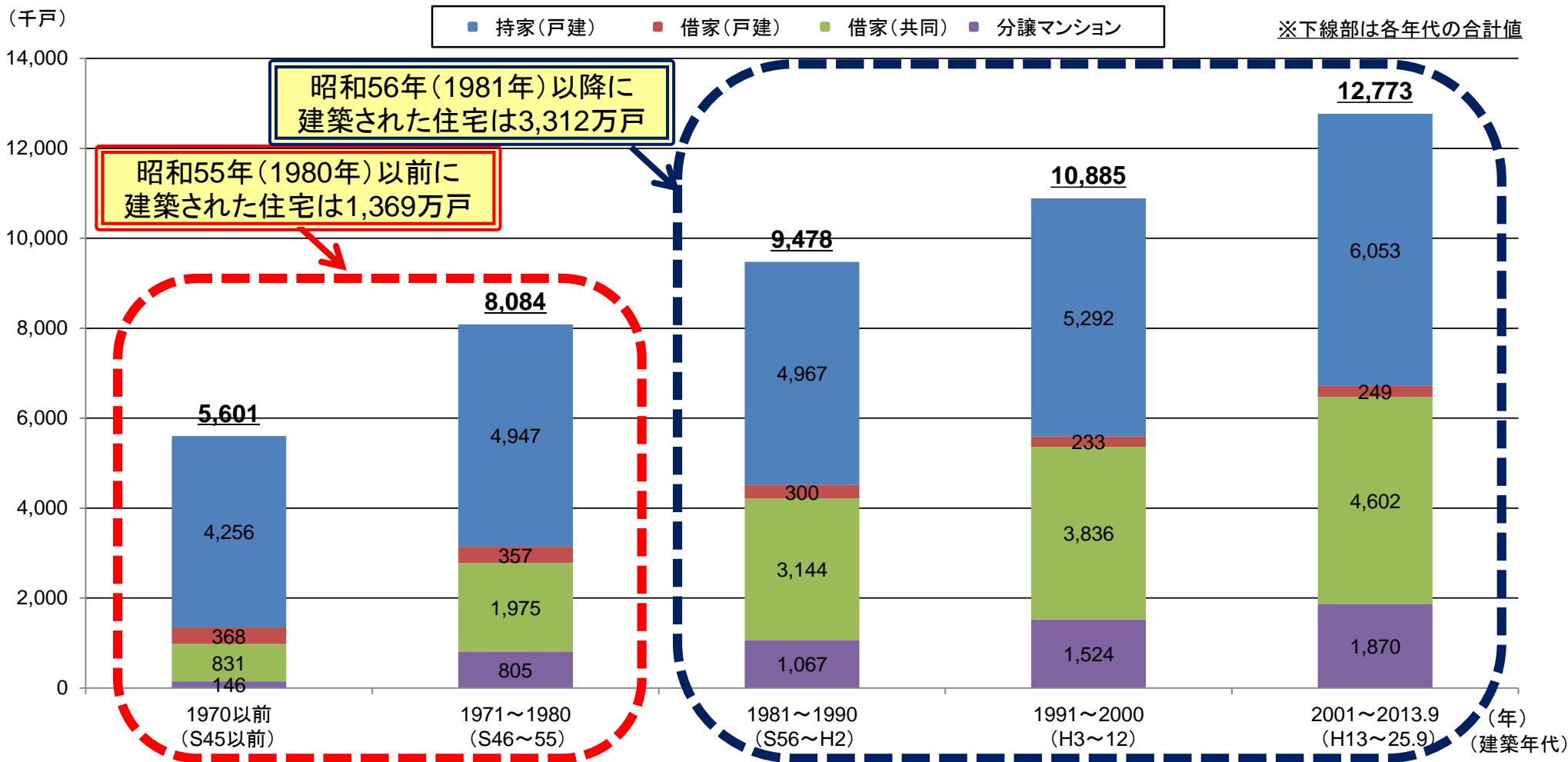
※3 持家が借家が「不詳」の場合を除く

※4 65歳以上の者が居住する住宅において高度なバリアフリー化(住生活基本計画(平成23年)で定めた、2箇所以上の手すり設置、屋内の段差解消及び車椅子で通行可能な廊下幅のいずれにも該当するもの)がなされた住宅の割合

※5 賃貸・売却等用の空き家数について、持ち家の空き家戸数は売却用・二次的住宅の総数、借家の空き家戸数は賃貸用の総数としている。

建築年代別の住宅ストック総数

- 現在の居住されている住宅ストック総数約5,210万戸（平成25年（2013年）時点）を建築年代別に見ると、昭和55年（1980年）以前に建築された住宅ストックは1,369万戸存在し、昭和56年（1981年）以降に建築された住宅ストックは3,312万戸存在する。
- 借家（共同）及び分譲マンションの割合が増加してきている。



※1:「借家」は公営の借家、都市再生機構・公社の借家、民営借家、給与住宅を含む
 ※2: 持家・借家の「長屋建て」、「その他(工場・事務所などの一部が住宅となっているもの)」及び「不詳(建築年又は住宅の種類が不明)」は除いている

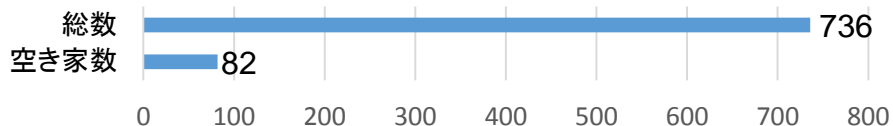
住宅総数と空き家数、空き家の内訳(東京都・大阪府・秋田県・高知県)

○大都市は地方より住宅総数・空き家数ともに大幅に上回る
 -住宅総数:東京都は、秋田県の16倍、高知県の19倍
 -空き家数:東京都は、秋田県の14倍、高知県の12倍
 ○空き家率は、東京都・秋田県が全国平均(13.5%)を下回り、大阪府・高知県は全国平均を上回っている。東京都・大阪府は「賃貸用の住宅」が多く、秋田県・高知県は「その他の住宅」が多い。

東京都

住宅総数と空き家数

空き家率:11.1%



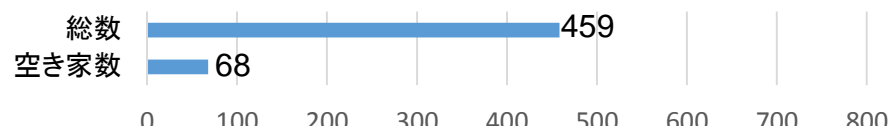
空き家の内訳



大阪府

住宅総数と空き家数

空き家率:14.8%



空き家の内訳



秋田県

住宅総数と空き家数

空き家率:12.7%



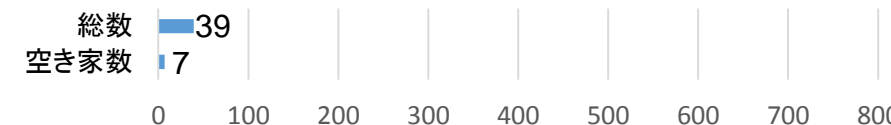
空き家の内訳



高知県

住宅総数と空き家数

空き家率:17.8%



空き家の内訳



■ 二次的住宅 ■ 賃貸用の住宅 ■ 売却用の住宅 ■ その他の住宅

出典:平成25年住宅・土地統計調査

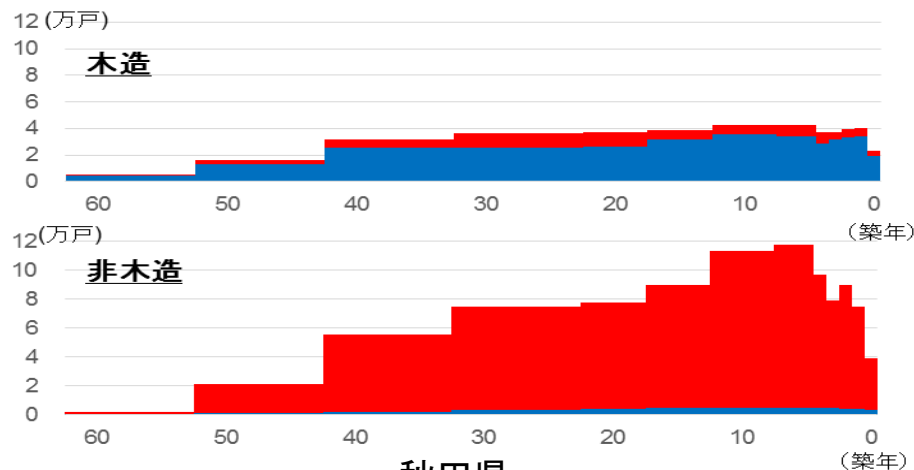
注:二次的住宅:別荘及びその他(たまたま寝泊まりする人がいる住宅)

その他の住宅:二次的住宅、賃貸用・売却用の住宅の他に人が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅など

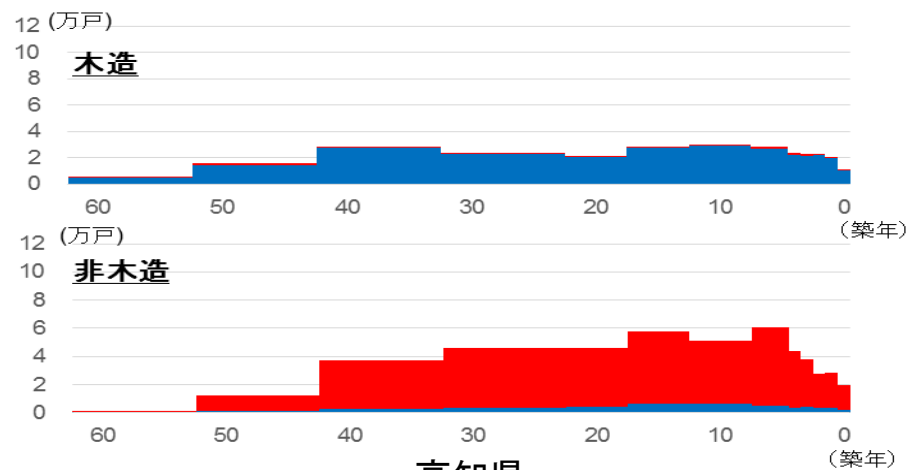
建物種類別築年数別のストック数(東京都・大阪府・秋田県・高知県)

○東京都・大阪府は非木造の共同建が多く、秋田県・高知県は木造の一戸建・長屋建が多い。
 ○東京都は、築10年以内の建物(非木造の共同建)が他の地域に比べて多い。

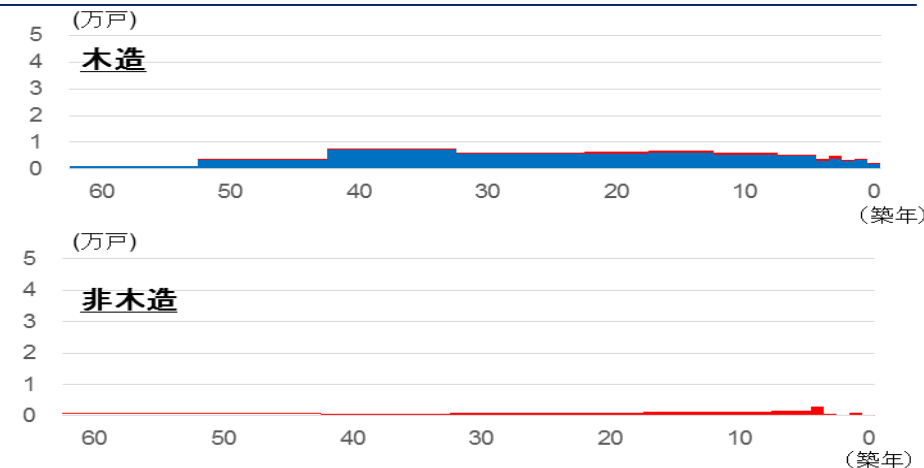
東京都



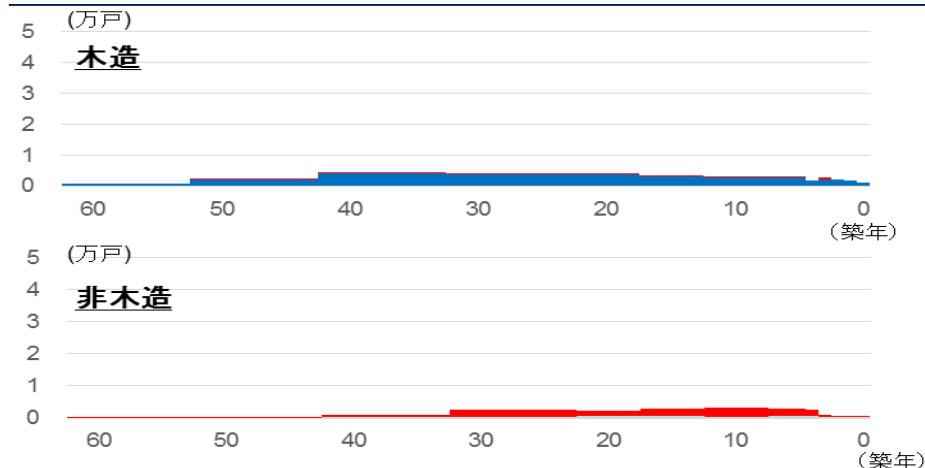
大阪府



秋田県



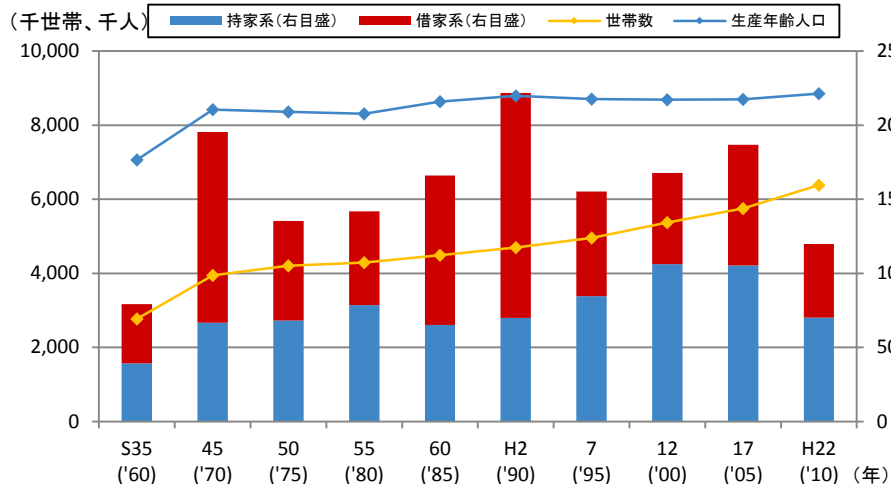
高知県



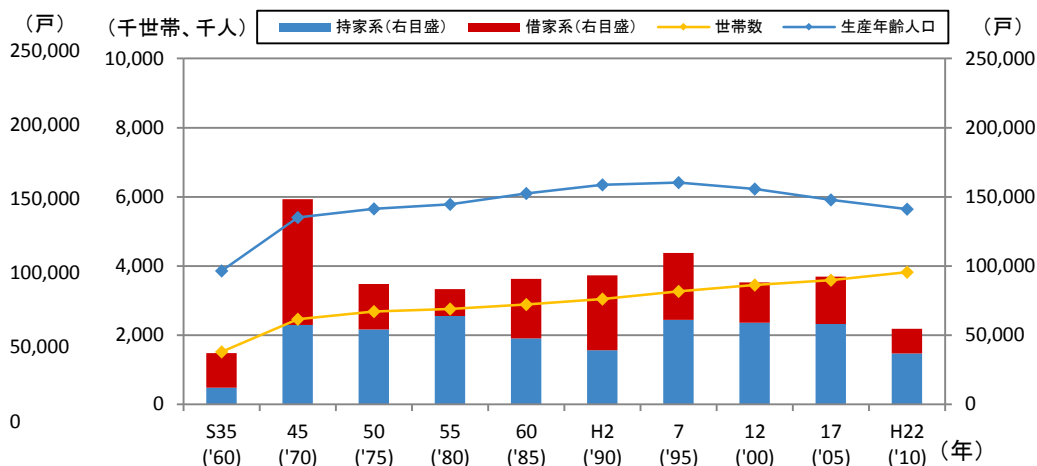
■ 一戸建+長屋建 ■ 共同建

○生産年齢人口が横ばい、又は大きな減少がない東京都、大阪府では、リーマンショックの影響などがあるものの、持家を中心に底堅い動き。一方、秋田県・高知県では、生産年齢人口の減少と概ね時期を同じくして住宅着工が減少。

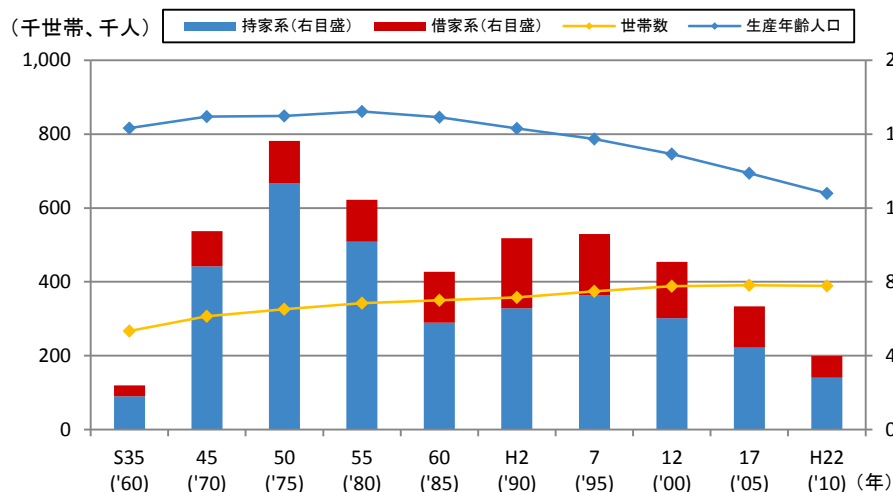
【東京都の世帯数、生産年齢人口と住宅着工戸数の推移】



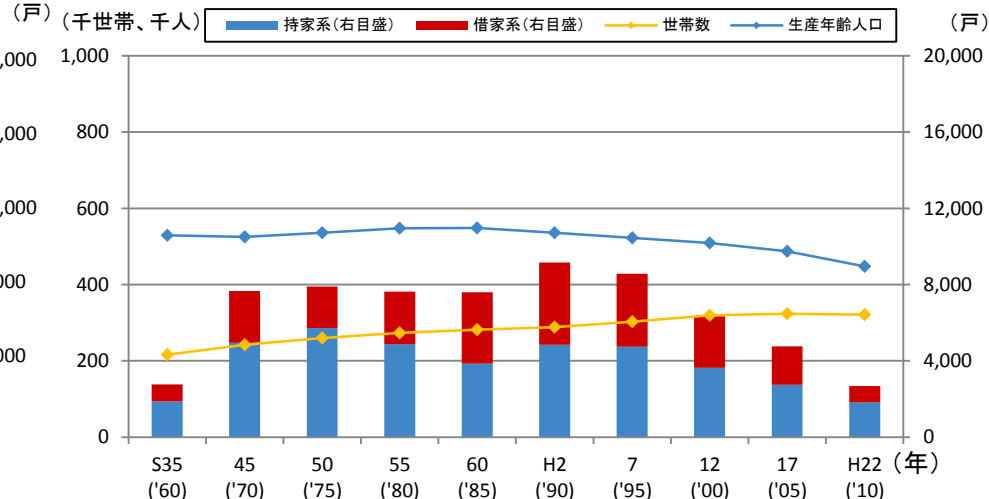
【大阪府の世帯数、生産年齢人口と住宅着工戸数の推移】



【秋田県の世帯数、生産年齢人口と住宅着工戸数の推移】



【高知県の世帯数、生産年齢人口と住宅着工戸数の推移】



出典: 国勢調査(総務省)、住宅着工統計(国土交通省)